

感染性胃腸炎

平成16年1月以降に県内で散発性の感染性胃腸炎と診断された患者から採取された検体は51件あり、表1に示したとおり 5種のウイルスが検出された。平成15年には無菌性髄膜炎の流行時期に重なってエンテロウイルスが検出されたが、16年は全く検出されなかった。ノロウイルス(NV)が、16年1月、12月、17年1月に合計12株検出され、ロタウイルスは16年4月、17年1月に合計3株検出されたほか、サポウイルスとアストロウイルスが1株ずつ検出された。サポウイルスはノロウイルスと同じカリシウイルス科のウイルスで、アストロウイルスはアストロウイルス科のウイルスである。ともに、感染性胃腸炎の原因となるが、ノロウイルスに比較しその頻度は高くはない。ともに、症状はノロウイルスと類似しており、症状からの判断は困難である。感染経路もノロウイルスと同様であるため、ノロウイルスに対する対策をとれば、十分である。

検査をした感染性胃腸炎集団発生のうち、ノロウイルスが検出された事例数を図1に示した。高齢者福祉施設での集団感染が多く報告された17年1月以降は、検査した事例も高齢者福祉施設関連がほとんどであったが、16年4月、5月に発生した事例には保育園、幼稚園、小学校における集団発生も含まれている。

表1 病原体検査結果 (感染症発生動向調査)

検体採取月	H16									H17			合計			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		1	2	3
検体数	11	0	3	5	1	1	3	3	0	2	0	6	15	0	1	51
ノロウイルス	4											2	6			12
サポウイルス												1				1
アストロウイルス													1			1
ロタウイルス				2									1			3
アデノウイルス40/41	1															1

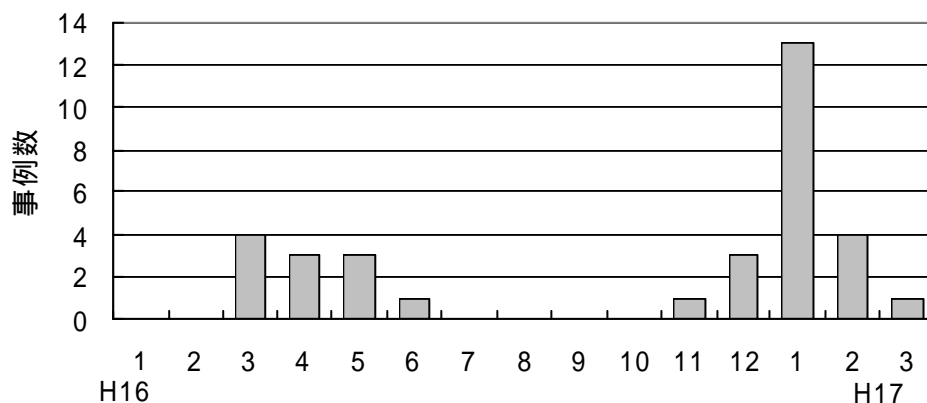


図1 ノロウイルスが検出された集団発生事例数